

第 3 学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 夏休みの思い出文集を作ろう
学習材「心にのこったことを」（東京書籍 3 年上）

2 単元について

- 本学級の児童は、国語科の書く学習に対して意欲的に取り組んでいる。1 学期は、紹介文、説明文、報告文の文種を扱い、学級作文集にまとめてきた。児童は、どの活動にも楽しみながら取り組んでいた。また、週末には作文課題も出している。毎週、異なる題材で 200 字程度を書いており、主に生活文を書いている。

「書くこと」について、「始めに」「次に」「最後に」等、順序を表す表現を使って書くことができている児童は多い。しかし、一文が長くなりすぎたり、全く改行しないで書いたりしている。また、出来事を羅列的に書くだけで感情表現が無かったり、「うれしかった」「楽しかった」等の平易な表現を多用したりする児童も多い。

教研式標準学力検査 NRT において、書く能力は全国比 104 とやや高い水準にある。しかし、文章全体の順序を問う問題に関しては、全国比 58 と極端に低くなっている。本教材で、どのようなことをどのような順序で書くかを考えることで、構成力も育みたい。

- 本教材は、「書くこと」領域として、「自分をしょうかいしよう」「調べて書こう、わたしのレポート」に続く 3 つ目の単元である。「自分をしょうかいしよう」では、書くための材料集めを、メモを使いながら色々な見方・考え方で探し、紹介文として書き表した。「調べて書こう、わたしのレポート」では、観察したことを基に報告文の書き方を学んだ。本教材では、伝えたい出来事を中心に、段落の組み立てを考えながら生活文として書く。

本教材では次の手順で学習を進める。①伝えたい中心を決める、②出来事をくわしく思い出す、③短く一文ずつメモを書く、④会話文、感想等を付け加える、⑤文の順序を考える、⑥段落を組み立てる、⑦メモを基に作文する、⑧誤字脱字、敬体を校正する、⑨感想を伝え合う。下線部分が、本教材における重点指導事項にあたる。夏休み明けの児童は、思い出の中から伝えたい出来事を選び、五感を使って出来事の内容をたくさんメモに書き出していく。そして、「始め」「中」「終わり」に、どんなことをどんな順序で書くか考えることで、自分の考えが明確になるような段落構成を理解することができる。と考える。

また、言語活動として「夏休みの思い出文集を作ろう」を設定する。作文を書いた後、クラス文集としてまとめて配布することを児童に伝えることで、相手意識をはっきり持たせたい。

- 指導に当たっては、記憶が鮮明なうちに記録を残させるために、夏休み明けの週末の作文課題で、「夏休み一番の思い出」について 200 文字程度の作文を書かせておく。

第 1 次では、担任や児童の夏休みの思い出を語り合った後、担任の夏休み作文を紹介する。その際、時系列順に出来事を羅列しただけの平易な文と比較して読ませ、工夫した部分を探させる。その後、学級全員の夏休みの思い出を作文集にすることを伝え、学習課題「夏休みの思い出をメモに書き出し、メモを並べ替えながら順番を考え、思い出文集を作ろう。」を設定し、以降の学習の見通しを持たせる。

第 2 次では、まず時間をかけて書くための材料をたくさん集めさせたい。その際、夏休みの思い出を 2 色の付箋メモに、思いつくまま書き出させていく。感情表現の言葉を使わせるために、黄色の付箋には「したこと、見たこと、聞いたこと、話したこと」を、ピンク色の付箋には「感じたこと、考えたこと」を一文ずつ書かせる。その後、付箋メモを並べ替えながら組み立てを構想させる。並べ替えた付箋メモを基に、児童同士で見せ合い、もっと詳しく知りたいと思うことを質問し合わせる。こ

れにより、場面を詳しく伝える言葉を付箋メモに書き加えさせたい。

第3次では、児童同士で作文を読み合い、互いのよさを伝え合わせる。その際、2色の付箋を用いて「読んだ感想」と「分かりやすかったところ」を区別して作文に貼らせていく。最後に、学級全員分の作文をとじ込み配付する。

3 単元の目標

夏休みの思い出の中から伝えたい出来事を決め、出来事を中心にがよく伝わるように、事柄ごとに段落を組み立てて書くことができる。(書くこと イ・ウ)

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの思い出作文を書くという目的を持って、進んで付箋メモを書き、意欲的に作文を書こうとしている。 友達の作文を読み、感想や良かった所を見つけ、伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「始め・中・終わり」の文章構成に即し、各部分での段落の役割を意識して、自分の考えが明確になるように工夫して書いている。(イ) 書こうとすることの中心を明確にし、分かりやすく様子を伝えられるように、事例を挙げて書いている。(ウ) 	<ul style="list-style-type: none"> 句読点を適切に打ち、段落の始め、会話部分などの必要箇所は行を改めて書いている。(イ(エ))

5 指導と評価計画 (全7時間)

次	時	主な学習活動 (○)	指導上の留意点 (・)	評価規準と 評価方法 (□)
一次	1 時 目	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休みの思い出について、話し合う。 ○教師自作の2種類の作文を読み、段落の工夫を考える。 ○段落の組み立てを工夫して作文を書き、学級で「思い出文集」を作ることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文の題材に興味・関心を持たせるために、夏休みの思い出について話し合う。 時系列に羅列した作文と、段落の組み立てを工夫した作文を比べ読みさせることで、学習課題に迫る。 児童が意欲を持続できるように、単元のゴールと見通しを持たせる。 	夏休みの思い出作文を書くという目的を持って、意欲的に作文を書こうとしている。 【関】 [学習活動の観察]
		学習課題 夏休みの思い出をメモに書き出し、メモをならべかえながら順番を考え、クラス思い出文集を作ろう。		
		<ul style="list-style-type: none"> ○学習計画を立てる。(児童の発言例) <ul style="list-style-type: none"> ・「思い出メモを作る」 ・「書く順番を考える」 ・「作文に書く」 ・「友達と読み合う」 等 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に学習を進められるように、児童の発言を取り上げながら学習計画を立てる。また、教科書で流れを確認させる。 	

二次 深める	2 ・ 3 時 目	<p>○夏休みの思い出で、友達に一番伝えたいことを考える。</p> <p>○出来事を思い出したり、取材したりして、思い出メモを書く。</p> <p>○教師による例文を読み、五感を生かした表現を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことの内容をしっかりと定められるように、ノートに書かせる。 ・出来事だけを羅列しないように、2色の付箋を用いて、視覚的に分かりやすくする。黄色の付箋には「したこと、見たこと、聞いたこと」を、ピンク色の付箋には「話したこと、感じたこと、考えたこと」を一文ずつ書かせる。 ・できるだけたくさんメモが書けるように、家族や友達に取材させる。 ・言葉を推敲させるために、五感を使った表現や、「嬉しかった」に代わる表現等を比べ読みさせる。 	<p>取材したり思い出したりしながら、2色の付箋メモをバランスよく、書いている。</p> <p>【書】 [ノートへの記述の分析]</p>
	4 (本 時) ・ 5 時 目	<p>○「始め・中・終わり」を意識してメモを並べ替える。</p> <p>○段落を意識してメモを書く。</p> <p>○並べ替えたメモを友達同士で見せ合い、感想を伝え合う。</p> <p>○数種類の例文を読み、書き出しの工夫を考える。</p> <p>○題名を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何を伝えたいのかを意識させて、必要・不必要で付箋メモを整理させる。 ・「始め」と「終わり」に当たる付箋メモを選ばせたり、付け加えさせたりする。 ・段落を意識できるように「時間・場所・人」の変化ごとに付箋メモをまとめさせる。 ・付箋メモを増やすために、詳しく知りたい部分を質問し合わせる。 ・書き出しの工夫をさせるために、会話文から、オノマトペから、一番印象的な場面から等、数種類の例文を提示する。 ・伝えたいことに迫る題名を考えさせる。 	<p>「始め・中・終わり」の役割を意識して付箋メモを並べ替えることで、自分の考えを明確に書き表している。</p> <p>【書】 [付箋メモの分析]</p>
	6 時 目	<p>○付箋メモを基に作文を書く。</p> <p>○完成した作文を読み返し、誤字脱字、敬体を校正する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を見本に、付箋メモ通りに書き写すのではなく、必要に応じて言葉を付け加えさせながら作文に書かせる。 ・早く書き終わった児童同士で、互いの作文を読み合い、間違いを直させる。 	<p>句読点を適切に打ち、段落の始め、会話部分などの必要箇所は行を改めて書いている。</p> <p>【言】 [作文の分析]</p>
三次 まとめる	7 時 目	<p>○友達の作文を読み合い、感想を伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の工夫に目を向けさせるため、感想を伝え合う際は、2色の付箋を用いる。「読んだ感想」と「分かりやすかったところ」を区別して作文に貼らせる。 	<p>友達の作文のよかった所を見付け、伝えようとしている。</p> <p>【関】 [学習活動の観察]</p>

6 本時について (4 / 7)

(1) 本時の目標

「始め・中・終わり」の役割を意識して、付箋メモを並べ替えることで、自分の考えを明確にすることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点及び支援 (○)・評価 (◆) C の状況にある児童への手立て (→)
つかむ	1 前時までの学習で、付箋メモに出来事を書き出したことを確認する。 (学級全体)	○本時の学習にスムーズに導入できるように、1 時間目に立てた学習計画を振り返らせ、本時のめあてにつなげる。 ○児童の主体的な学びにつながるように、めあては児童の発言から立てる。
見通す	2 本時の見通しを掴む。 (学級全体)	○伝えたいことが伝わる順番について問い、「始め・中・終わり」に分けることよさを確認させる。 ○既習の内容を思い出せるように、教室の掲示物を振り返らせる。
考える	3 「始め・中・終わり」に沿って、付箋メモを並べ替える。 (個人・ペア)	○「始め・中・終わり」を意識させるために、3 つの枠を用意したワークシートに付箋メモを分けて貼らせる。適した付箋メモが無い場合は、新たに増やしてもよいことを伝える。 ○「始め」と「終わり」部分の役割を満たしているか確認するために、ペア同士で「始め」と「終わり」部分を読み合わせる。 ○内容のまとまりを捉えさせるために、「中」部分を「時間、人、場所」等が変わるタイミングで、段落分けすることを確認する。 ○既習の内容を思い出せるように、教室の掲示物を示す。
考え合う	4 「中」の部分について、伝えたいことがよく伝わるための改善点を考える。(個人・全体)	○次時における自身の課題を明確に持たせるために、傾向ごとに児童のワークシートを集めて紹介し、自分がどの型に近いか考えさせる。 ○伝えたいことが書かれている段落の内容を充実させるために、他の段落と比べて付箋メモの数が多いか、ピンク色の付箋メモがたくさん使われているかを検討させる。
振り返る	5 本時のまとめと振り返りを行い、次時への見通しを持つ。 (学級全体)	○児童の主体的な学びにつながるように、まとめは児童の発言から示す。 ○本時の学習目標に迫らせるため、振り返りは、キーワード「つたわる」を使わせる。 ○次時は、個々の改善点について、付箋メモを増やしていくことを伝える。

めあて 思い出メモをならべて、つたえたいことがつたわる順番にしよう。

◆「始め・中・終わり」の役割に沿って、付箋メモを並べ替えている。
【書】[付箋メモの分析]
→板書の例と教室掲示物に注目させ、適切な付箋を選ばせる。